

スバレイの
とけいとう
金崎^さひめた日時計^{ひかり}は塔

作・ゴンドーマサキ
絵・hare

sample

ごうかした きよく でんしゃ おと ととき ひび なか
高架下にあるラジオ局。ガタンゴトンと電車の音が時おり響く中、
ふたり ディー・ジェイ たの しゃべ
2人のDJが楽しそうにお喋りしています。

つづ れきし
「続いては、スマバレイの歴史の
ものがたり とど
物語をお届けしましょう」
むかしむかし いろあざ
「昔々、スマバレイには色鮮やかな
とけいとう た
時計塔が建っていました」



あお うみ のぞ みどりゆた やま かこ ちい まち
ここはスマバレイ。青い海を望み、緑豊かな山に囲まれた小さな町です。

よ りゆう まち ひろば
「ベル・タウン」とも呼ばれていて、その理由は、町の広場にありました。

どうどう た とけいとう
堂々とそびえ建つ時計塔。

とけい はり じ じ しめ おひそ かね おと ふ そそ
時計の針が6時、12時、18時を示すとき、厳かな鐘の音が降り注ぎます。

おと ひとひと めざ ちゅうしょくむ しごと かいほう
その音は、人々を目覚めさせ、昼食に向かわせ、仕事から解放しました。

とけいとう まち く ひと とも
この時計塔は町で暮らす人たちと共にあったのです。

むかし とけいとう そうとう やっかい
しかし、それも昔のこと。時計塔は相当に厄介なものになっていました。

とそう は お はなばな
くすんだ塗装はところどころ剥がれ落ち、華々しさはありません。

ちようかいぎいん ぎじどう えんぜつ
町会議員のコリンズが、議事堂で演説しています。

とけいとう ふる しゅうり かね と こわ よ じき
「時計塔は古くなり、修理にもお金がかかります。取り壊すには良い時期なのではないでしょうか」



ひと　と　かこ
たくさんの人たちがコリンズを取り囲みました。
ちから　あ　あした　つく
「みなさん、力を合わせ、明日のスマバレイを作っていきましょう」
「エイエイオー！」



「ヒッヒッヒッ」
へミングがぶきみにわらちか
へミングが不気味に笑いました。コリンズが近づき、
みぎでさだこた
右手を差し出しましたが、へミングは応えません。

「あんたもかわいそうな人だね」
かお　あか　こうぎ
コリンズは顔を赤くして抗議しました。
「なんだって!？」

「ヒッヒッヒッ」
ぎじょう　で　い
へミングは議場からゆらりと出て行きました。



かえ むすこ つま でむか
コリンズが帰ると、息子のケイトと妻のヴィオラが出迎えてくれました。
こんや
今夜のメニューはカレーライス。ヴィオラの得意料理で、ケイトもコリンズも大好物です。
きょう はな あ
「今日はどんなことを話し合ったの？」

め かがや
ケイトの目は輝いています。
とけいとう こわ ほう おも
「時計塔は壊した方がいいと思うかい？」
き うなず
コリンズが聞くと、ケイトは「うん!」と頷きました。



き
「ケイト、聞いたぜ。おやじさん、やっぱりカッコいいなあ」
しんゆう こうふんぎみ はな はじ なんにん あつ
親友のロージーが興奮気味に話し始め、何人かが集まってきました。ケイトが思いを寄せるミーアもいます。
だれ い だ とけいとう と こわ ましょうめん き て
「誰もが言い出せなかった時計塔の取り壊しについて、真正面から切り込んだんだ」
はなしとうじょう まおう しろ の こ ゆうしゃ
ロージーの話に登場するコリンズは魔王の城に乗り込む勇者のようです。
ぼく こ しょうらい かんが きび けつだん
「それはね、僕たち子どもやスマバレイの将来を考えた、つらく厳しい決断だったんだよ」
きょうしつ はくしゅ つつ
教室は拍手に包まれました。



ためしよみ

は

ここまでです